

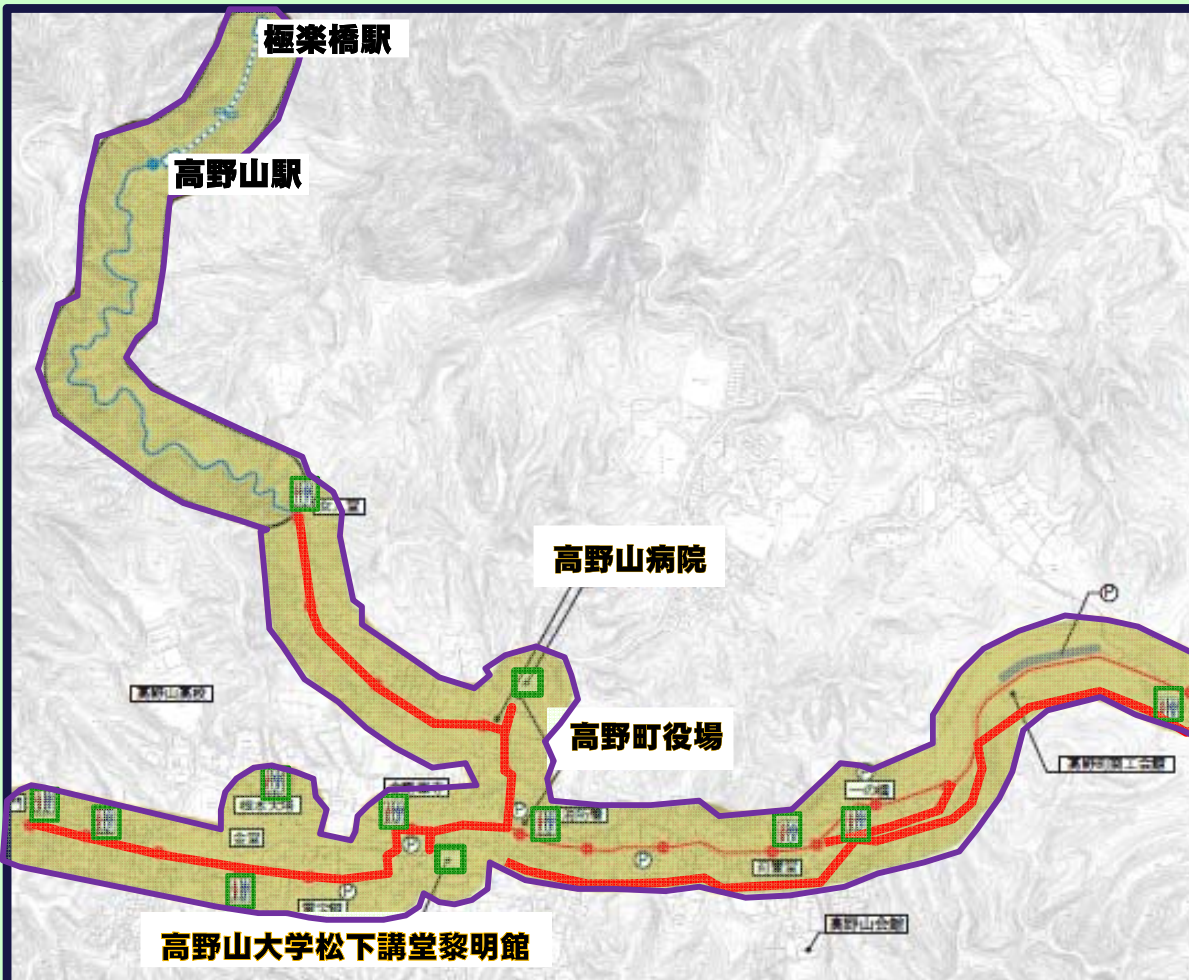
高野山地区バリアフリー基本構想(高野町)

概要 (受理日 平成18年12月20日)

山間地の地形的困難性を有しながらも、地域内外の利用者の意見を踏まえつつ、ケーブルカー特有の階段状の乗降場のバリアフリー化、景観に配慮した新たなエレベーター塔や多機能トイレの設置、ノンステップバスの配備等、世界遺産を抱える観光地として、多くの、様々な利用者を想定したバリアフリー化整備を行った。

重点整備地区の位置及び区域

高野山地区 (面積 120ha)



凡例

重点整備地区 生活関連施設 生活関連経路

特定事業

公共交通特定事業

道路の状況や冬季の積雪・凍結の状況の考慮し導入に向けて検討する。
運行情報提供設備等(車外用放送設備、行き先表示)についても検討を進める。

道路特定事業

波打ち歩道・段差の解消、破損個所の修復等、可能な部分から整備を進める。
町道で誘導ブロック未設置の箇所の整備を行う。また、景観に配慮した誘導ブロックで周囲との対比が明瞭でない部分について再検討する。
歩道上にある電柱や看板等の障害物の移設・撤去を進める。

建築物特定事業

各建築物における誘導ブロックの設置、景観に配慮した公衆便所の設置と身体障害者用便所の整備。公衆便所における案内標識・点字表示の整備。

交通安全特定事業

身体障害者対応型信号機の設置、迷惑駐車取り締まり。

その他事業

極楽橋、高野山駅の移動円滑化のための事業、ケーブルカーの整備、移動等円滑化に必要なサイン・案内板の整備等

当事者の意見の反映方法

来訪者による現地調査

南海電鉄難波駅を出発点とし、南海電車、ケーブル、バスを利用し、高野町をフィールドとした来訪者と高野町との住民の交流を兼ねた現地調査を実施した。車いす利用者、視覚障害者、聴覚障害者の3名については、担当者が難波駅から各ポイント地点の利用しやすい点、課題、提案などの意見を随時ヒアリングを行った。

当事者参加による現地調査

基本構想を住民全体の計画として位置付けるため、行政、寺院関係者、福祉関係者、公共交通事業者、公安委員会、観光事業者、教育委員会、学校、地域住民が町歩きを行い、様々な立場から見た課題や提案を行った。

基本構想の推進体制

協議会の構成

高野町老人クラブ、高野町身体障害者会、高野町連合町内会、高野町商工会、高野町観光協会、宿坊組合、高野町等

スパイラルアップの方法

住民だけでなく、高野山を訪れる観光客にも使いやすいものとするため、基本構想作成後の事業実施に向けた取組み及び事業の進捗状況についての意見交換や高野山を訪れる人との継続した交流を進めるための定期的な会合を開催した。

高野山地区バリアフリー基本構想(高野町)

その他事業

高野山駅・・・駅ホームにエレベーターと連絡通路を設置。高齢者、障害者だけでなく、大きな荷物を持つ観光客にも対応できる改札口までのバリアフリー化ルートを確認。

極楽橋駅・・・階段昇降機を設置し、乗降用渡し板を使用することにより車いす使用者等のケーブルカーへの乗降を容易にした。



▼ケーブルカー車内



▼▲景観にも配慮したエレベーター等の設置

▲階段昇降機の設置

■改修概要

○極楽橋駅

- ・階段昇降機 1基
- ・スロープ 1ヶ所
- ・多目的トイレ 1ヶ所
- ・誘導警告ブロック、手すり、点字案内板、案内サイン

○高野山駅

- ・エレベーター 1基
- ・多機能トイレ 1ヶ所
- ・誘導警告ブロック、手すり、点字案内板、案内サイン



多機能トイレ▼



観光案内標識の充実

観光案内標識にピクトグラムを入れ、多くの人が認識できるようにした。



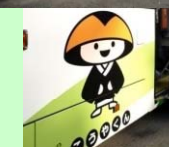
建築物特定事業 周りの景観に配慮しつつ、すべての公衆トイレのバリアフリー化改修を行った。



▲バリアフリー化された公衆トイレの外観

公共交通特定事業

高野山駅を起点に高野山地区を走る路線バスのノンステップ化を推進



オストメイト対応便器▲